

# FIELD-BASED STUDIES

フィールドスタディーズ（学外学修）

受入機関名〈五十音順〉		学修テーマ
燕市 商工振興課		「天神講」ブランディング ～伝統行事を残していくために～
新潟経済同友会	株式会社 当間高原リゾート	雄大な自然を活かす！～教育旅行の新しい取り組み～
	株式会社 コメリ	SDGsの視点から新たな暮らしを提案しよう
	株式会社 たかだ	リノベーションによる空き家の利活用
	株式会社 ツインバード	家電製品の企画提案
	ヤマト運輸 株式会社	ふるさと納税について新潟県内自治体の現況分析と課題抽出
公益財団法人 新潟県女性財団		身近なアンコンシャス・バイアスを探す ～思い込み、決めつけに気づく学習資料の作成～
新潟県立自然科学館		科学館の常設展示物の魅力を引き出し、より楽しく、面白くする手法を検討し、実践する
新潟県労働金庫		福祉金融機関「ろうきん」の「過去」「現在」「未来」 —「ろうきんファン」拡大に向けたリーフレットの制作—
新潟市 江南区役所産業振興課		地域ブランド「亀田縞」を若者に親しんでもらうための アイデア提案
一般社団法人 農村振興センターみつけ		「農村RMO」による農村集落を守り続けるアイデアの構築
宮内摂田屋method		宮内摂田屋エリアが「ブクブク、ワクワク」する アイデアの提案

■問い合わせ先

新潟大学創生学部

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地  
TEL.025-262-6998（創生学部学務係）  
<https://create.niigata-u.ac.jp>

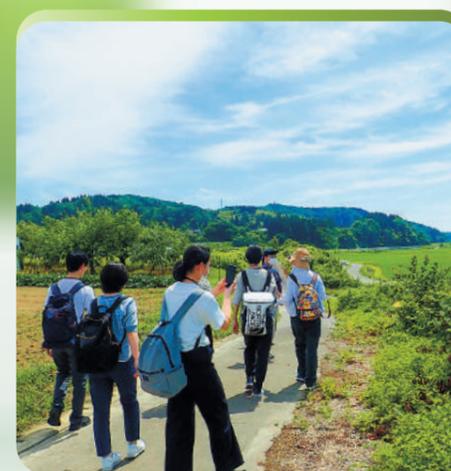


新潟大学創生学部  
ホームページQRコード



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

(2023年5月発行)



真の強さを学ぶ。

新潟大学  
NIIGATA UNIVERSITY

# フィールドスタディーズ（学外学修）とは？

学生が企業や自治体など、学外のフィールドに赴き、グループで活動を行う授業です。グループごとに現場の方々のサポートを得ながら課題を発見し、学生主体の企画や提案を行います。一連のプロセスによって、社会の課題を体感し、大学での学修意識の転換を図ります。授業は学外で行う4週間のフィールドワークのほか、学内で行う事前・事後学修によって構成されています。

## フィールドスタディーズで身につく力



## 学生受入機関担当者からメッセージ

**株式会社たかだ**  
(受入：2017、18、20、21、22年度)

令和5年度のテーマは「リノベーションによる空家の利活用」です。住宅産業の変遷と流行（施主ニーズ、建築デザインなど）に深く関わってきました。そのなかで本学修を通じて、当社と様々な活動で関わってきた住宅会社、建築設計士、まちづくりプロジェクト方々は学生と交流しながら新潟の住みづくりを考え、斬新な意見を取り入れていくことに喜びを感じています。今年も空き家利活用に取組みます。ご参加をお待ちしております。



株式会社たかだ

**新潟市 農林水産部食と花の推進課**  
(受入：2021、22年度)

令和4年度のテーマは、「農業の活性化に向けた新たな取り組みの提案」でした。学生の皆さんには、限られた時間内で苦労しつつも、現場の農業関係者を訪問して学んだ内容を盛り込んだ提案をしていただきました。FSでは、短時間で学外の方々との貴重な繋がりが得られ、チームで協力して課題を解決するスキルを習得することができます。得られた経験は今後の学生生活に役立つと思いますので、ぜひ楽しんで学修に取り組んで下さい。



新潟市食育・花育推進キャラクター  
まいかちゃん

**新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院** (受入：2022年度)

2022年度は「外国人患者さんが安全に、安心して受診できるようにするには？」をテーマとして、留学生や病院職員へヒアリングをしていただき、それぞれの立場に立った意見の集約、双方の意向へ配慮した対応策を検討していただきました。立場による意見の違いを実感することで、社会人として重要な他者理解・合意形成の過程を経験できたのではないかと思います。成果として作成いただいたガイドブックとフロアマップは当院で活用させていただきます。



事務部長  
吉澤初記さん

授業の流れ（火・水・木曜日9：00～17：00 全8週間）

**事前学修（2週間）**



**1週目**

- 授業ガイダンス
- 全体レクチャー（外部講師）
- チーム編成

**2週目**

- 個人目標設定
- フィールド事前調査
- グループ目標設定

**学外学修（4週間）**



**3週目**

- フィールドに関するレクチャー・グループ単位での活動を行う。（1グループ3～5名）

**4週目**

- 各フィールドでの学修・学修内容や課題は協力機関ごとに設定する。
- 現地調査、ヒアリング、ディスカッションなどを行う。
- 学外での活動を中心とするが、必要に応じて学内での活動も行う。

**5週目**

- 学外学修のまとめ
- 各フィールドでの成果を報告し、現場の方々から学ぶ。

**6週目**

**事後学修（2週間）**



**7週目**

- グループでの学修成果のまとめ（プレゼン準備）

**8週目**

- 公開报告会（最終プレゼンテーション）の実施
- レポート提出

## 2023年度協力機関（五十音順）

